

ご注意
過去に当社が原情報を著作した新聞・雑誌等の記事は、画面上の閲覧のみが可能です。これら記事は過去に公開されたものですが、現状で利用する際には著作権等が発生する場合があります。利用をご検討の方は当社にご相談願います。
日本環境保全株式会社

1995年(平成7年)

3月22日

第791号

水曜日発行

定価1部310円 年間購読料15,000円・税込み
振替口座 東京511766

オートレビュー

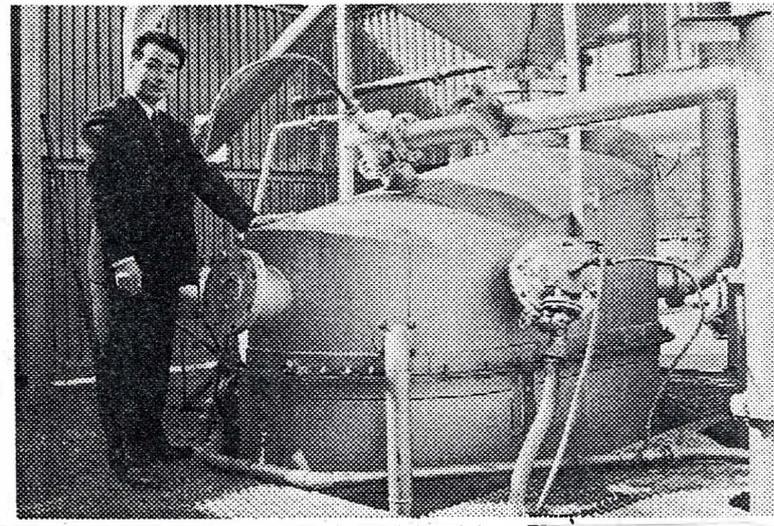
オートメーションの総合情報紙 — AUTOMATION REVIEW

発行所 © オートレビュー社 〒108 東京都港区芝浦4-9-18 グランドパレス 5F 電話(03)5232-2881 〒541 大阪市中央区久太郎町1-2-7三星RSビル 電話(06)263-0851

日本環境保全が超小型溶融炉

2200度
Cに対応

セラミック採用



超小型溶融炉

日本環境保全(茨城県牛久市上相田四一ー一、電話0297-74-4351、杉山静素社長)は、二〇〇度Cに耐えるセラミックを採用した超小型溶融炉を開発、焼却炉、廃煙処理

装置などから構成する最新ゴミ処理システムJBO-021を完成し受注を開始した。三千人からのゴミ処理がわずかに九百九十平方メートルで行うことができ、また

地下埋設も可能で、美観をそこなわない特色を備えている。スラッチは建材、骨材として二次利用できる。ゴミ処理システムJBO-021は、粗大ゴミ焼却炉、タイヤ・ゴム類焼却炉、ロータリーキルン式焼却炉から出る焼却灰を超小型溶融炉で〇・五ー二・五ミリの

大きさのスラッチにする。スラッチは硬度が八〇ー九〇キロで粒子が細かいため上質の建材、骨材に利用できる。排煙は処理装置によって有害物を基準値の十分の一に除いており、影響がない。

このシステムの要である溶融炉は、セラミックを炉壁素材に採用し一七〇〇度C以上の超高温焼却が可能になった。また、多層壁とすることで炉を手で触れても安全。そのうえ、二二〇

〇×五二〇〇×四二二〇と小型化にも成功し、システム全体の省スペース化が実現。燃料には廃油を使用、灯油や重油に比べ大幅なコストダウンとなる。焼却能力は一時間当たり二〇〇キロ。

同社は自治体を中心に受注を開始するが、システム全体が小規模化できるため、従来に比べ価格も三分の一程度になるといふ。また、各炉の内部がカードリッジ方式となっており、メンテナンスも容易である。

システムの完成に伴い、ベストGG(青梅市、木下龍巳社長)と共同で茨城県稲敷郡新利根村に実験プラントを設置、公開する。